

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273100137		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム ゆひもや (3階)		
所在地	静岡県清水区由比427-14		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22731

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①研修制度の充実:年間を通し、新人職員・一般職員・リーダーの研修を計画している。(介護技術・認知症の理解・身体拘束・感染予防等)
 ②近隣医療機関との連携を持ち緊急時の対応・ターミナルへの対応が整っている。
 ③地域との連携強化:地域運営推進会議では、地域住民の皆様との関わりを深く持ち貴重な意見を頂いている。施設内の状況を密に報告することにより、グループホームを理解して頂いている。近隣教育機関との関係性を持ち地域で高齢者と子供たちが触れ合う機会を作っている。ボランティア、福祉実習の受け入れを積極的に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれたのどかな地域に事業所はあり、地域の理解と協力が高く、双方向の信頼関係が築けている。例えば、事業所のマークは地元中学校の生徒が作製したものであり、中学校のほかにも幼稚園など児童・生徒が年間200名余来訪している。ボランティアの受入も三味線や日舞、ハーモニカなど週2~3日あり、年々メニューが増えている。また、地域との関わりほかに職員教育にも力を入れており、法人内講師による内部研修は10年ほど続いている。昨年からさらなる標準化を目指し、外部講師による「介護基礎」「遊びりテーション」を取り入れている。さらに、その学びを職員同士で確認し合い自分たちのものにしていくことで、今後は地域へ恩返しできる事業所となっていきたいと願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所独自の理念を掲げている。朝礼や会議の前に唱和し目標を具体化している。理念を理解する事でお客様との気持ちの共有に取り組んでいる。	理念の一端である「いつも私達がいるから、だいじょうぶ」というのは職員が常に遣う言葉であり、浸透している。理念の実践ということでは、地域のお祭りで太鼓をたたきたいという希望のあった利用者の願いを実現することに至った例もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	H22年8月由比町商工会50年祭にゆひもやも出店し参加している。ゆひもやの行事や避難訓練にも近隣の方に参加して頂き協力を得ている。	現状は地域の皆さんに支えられることが多く、今後は事業所が地域の役に立てることを増やしていきたいと管理者は考えている。ただし、標準的な実績はあり、昨年も認知症サポーター養成講座や商工会行事への出店協力などが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H22年7月静岡市介護保険課の協力を得て認知症サポーター養成講座を地域住民・利用者のご家族を対象に開催している。地域の民生委員の方の見学・研修などの協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、お客様の暮らしや行事の報告を行い、ホームへの理解を得るように心掛けている。由比災害ボランティアコーディネーターの方にも参加して頂きアドバイスを頂いている。	事業所を広く知ってもらおうという考えで取り組んでいる。参加の皆さんの口添えで年々ボランティアが増え、現在は週3回の訪問があり、三味線、日舞などを利用者が楽しんでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターからも協力を得て、参加して頂いている。	運営推進会議の報告を毎回届けているため、担当者とは相談しやすい関係ができています。また、認知症サポーター養成講座の開催も市の協力を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については会議のなかで常に話し合う機会を設けている。	出来る限り身体拘束をしない方針で取り組んでいる。やむを得ない場合に取り組む場合、必要な書面は備えている。スピーチロックについては相互に注意し合っている。	「言ってはいけない言葉」や「なぜいけないのか」について職員で話し合い、言葉について考える機会を作ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修には必ず職員が参加し、全体会議で研修報告を行っている。話し合う中で自分を振り返る事で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例もなく、研修の機会を持っていないままている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆひもやの理念、経営方針を詳しく説明し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に利用者のご家族にも参加して頂き意見を地域の方に表わす機会を設けている。家族会を開催し御家族同士で話し合う機会を設けている。ホーム会議でも寄せられた意見を報告し話し合っている。	運営推進会議に持ち回りで参加してもらうほか、家族と利用者と職員で日帰り旅行にも出掛けている。また、少人数のグループで家族同士話をする機会も作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の報告をホーム会議で行い、話し合う機会を設けている。	管理者が職員と共に働いてきた同僚であるため、職員は率直に意見を言える関係である。上期・下期の目標についての個人面談もしている。約半分の職員が開設からの職員で定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に各職員が目標を設定し日々努力している。目標や成果は全体会議で全職員が発表する事で把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は施設内研修や施設外研修に参加できる機会を設けている。介護技術研修や普通救命講習には全職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会はなかなか持つ事ができないが各施設のこやまケア委員による会議などを行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談し、不安要望を聞く機会を作っている。自ら訴えの出来ないお客様に対しては、信頼関係を築く所から始め本人の気持ちを読み取れるように努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談し、納得行くまで話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	按摩マッサージ師や散髪などサービスがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に共感する大切さを職員は理解し、共に過ごし支え合い、今日の介護に悔いが残らないように努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ゆひもやでの行事にはご家族にも参加して頂き、一緒に楽しむ事ができています。年2回家族会を開催することで、家族と共に支える姿勢を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事に参加する事で馴染みの人達とも楽しく過ごす事ができる様に配慮している。	家族との関係継続支援として日帰り旅行などの行事に取り組んでいる。また、併設のデイサービスからの利用者が約半数であり、利用者同士の交流は現在も続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同志の関係を壊さないように配慮し、互いに助け合いコミュニケーションが取れるように、さり気なくサポートしている。各階のお客様との関わりをもち互いに楽しく過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人に関わる保険医療、福祉関係者、ご家族と情報交換をおこなっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や家族会などで家族の意見を聞き、又お客様一人ひとりに担当の職員がおり、お客様の要望を把握するように努めている。困難な場合は、安全面を考慮して楽しみを持って生活できるように配慮している。	月2回のサービス担当者会議で職員全員で話し合っている。利用者も職員も長い付き合いになっており職員側の思いが深くなっているため、思い込みや偏りが無いよう、管理者は配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを使用して把握に努めたり、面会時や家族会などで話を聞くように心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートに記入する事で把握したり、生活記録を確認する。月2回のホーム会議で話合う事で把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のホーム会議で、モニタリングやサービス担当者会議を行い見直しを行う事で、プランに生かしている。	プランのサービス内容について毎日やうたがやらないかのチェックとともに具体的に何に取り組んだのか記録をとっている。また、1日の流れでも取り組みを記載している。これらの詳細な情報を計画作成担当がモニタリングシートにまとめている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様一人ひとりの介護計画が把握できる様に生活記録が作成されており、一ヶ月ごとに実践の結果を確認することができる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているDSのお客様との交流を図り、合同行事を行っている。又ホームのお客様の希望によるDSのレクリエーションへの参加もその都度対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議には民生委員や包括支援センターの方、地区長様、災害ボランティアの方にも参加して頂き理解を得ている。地域のボランティアや中学生の協力で行事を盛り上げて頂いている。消防署や近隣の住民の協力を得て防災訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の希望に合わせて医療機関を決めている。協力医を確保し、2週間に1度の定期的往診を受けているお客様もいる。往診時には看護師が対応し医師と連携を取っている。職員の勤務調整を行い受診対応を行っている。	家族が付き添う場合、介護の様子(約1週間分)を书面で持参してもらい、より適切な判断をもらえるよう支援している。また、医療情報は「医療連携記録簿」で情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの専属の看護師がおり健康チェックを行っている。又DSの看護師とも医療連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態に合わせ医師、家族と相談している。入院時には看護師と話し合う機会を設け、安心して入院する事ができるように対応している。家族が医師との面談の時了解を得て、一緒に話を伺い状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針、マニュアルを作成しホーム会議でその都度確認している。又ご家族にも配布し説明している又同意書もいただいている。地域運営推進会議でも取り上げて説明している。	契約時に「できること」「できないこと」について説明している。協力医療機関の医師も医療連携の看護師も24時間体制のため、医療に関わる場合でも家族が希望するなら取り組む考えでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員の職員が受講し救命技能を有している。又常に全体会議などで確認する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民の協力を得て、一緒に年2回の訓練を行っている。家族用の緊急連絡網が作成され、家族の協力も得ている。	隣近所の皆さんの参加は毎回7名前後あり(ほぼ同じ顔ぶれ)、部屋の配置も心得てもらっている。貯水タンク、備蓄もある。	地域の防災訓練に事業所から参加することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けているが細かな所までは配慮できていない事もある。個人情報の取り扱いについては、施設で勉強会を行い徹底している。	されて嫌なことはしないということを中心に、一人ひとりのことを考え取り組んでいる。例えば、入浴の同性介助や食事介助の前掛け(ビニールエプロン)はしないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせた対応を心掛け、さり気ない言葉掛けや介助を行っている。担当の職員が本人の希望を聞きだし叶える事で、楽しみが持てるように、他の職員も協力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりを持った対応を心掛けているが、個々のケアという点ではまだ不十分である。その人らしい生活の質を上げて行く事が課題となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その場に合った衣類の選択ができる様に声を掛けている。美容院は出張美容院を利用したり、馴染みの美容院に行くなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や誕生日・行事・季節に合わせて献立を立てるように心掛けている。食事作りへの参加が少なくなっているが、食後の片付けは毎日一緒に行っている。	肉や魚などの主菜に副菜が2品目つき、栄養も見た目も豊かである。職員が間に入り、会話を交えながら楽しそうに食事ができている。クリスマスや敬老会などの行事食はほぼ毎月ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取できるように配慮し体調に合わせて調理方法を工夫している。毎日の摂取量を記録し、随時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、本人に合わせて対応しているが完全とまでは行かない。歯科医との連携は取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認して、本人に合わせた声掛けを行っている。紙パンツ・尿取りパットは、常にホーム会議で話し合い、本人に合った使い分けを行っている。	日中は紙パンツを使わないように努めている。排泄チェックをもとに声掛け誘導を繰り返しているため、高齢であっても状況が改善した利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を服薬しなくても排泄できる様に、水分補給量を1日1000ml以上摂取出来る様に配慮している。(食事以外)排泄表を確認して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には体調確認を行い、2日に1回は入浴できる様に声を掛けている。毎日入浴されているお客様もいる。生活向上委員が季節に合った入浴剤などを使用し気分転換を図っている。	入浴日の設定はあるが、機能があれば毎日入浴される。実際毎日入浴している利用者もいる。時間は日中なら選ぶことができる。アロエなどのかわり湯にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間と日中の様子を申し送り確認し、1日の過ごし方を配慮している。随時お客様の様子を見ながら昼寝などの声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の服薬している薬の表を個々にファイルし、確認し易いようにしている。1日の服薬の管理は担当の職員が決めてあり把握して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を肌で感じて頂ける様に行事や、外出の企画を立てて行っている。洗濯物をたたむ事や食器の片付けなど毎日行っている。何事も出来ないだろうと決めつけずに、視点を変えて出来る事を見つけるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はお客様の楽しみでもあるので、できる限り外出できる様にケアプランの中にも取り入れて支援している。少し遠出をしたり、家族旅行を計画し実行している。	重度化が進むと責任回避から外出を避ける事業所も見られるが、本事業所は全員で外出することに取り組んでいる。利用者第一の姿勢を法人トップがもっているとともに、事業所が家族と良好な関係が築けていることが実践の基盤となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が金銭管理を行っているがお金を持つ大切さは理解している。家族の了解を得て個人で持っているお客様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて対応している。ホームに家族から電話があった時など、短い時間でも家族に了解を得て、本人と話して頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な雰囲気を作るように心掛け手いる。トイレや浴室などは不十分ですが落ち着いて生活して頂ける様に気配りしている。	欄間を開け、換気を心がけている。温度・湿度計の設置もあり、濡れタオルを干すなどして調整している。ソファーには手作りの座布団が並び、職員の心尽くしが感じられる。また、雛人形も飾られ、一般の家庭の雰囲気づくりも成されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や居間は自由に使って頂き、さり気ない見守りを心掛けている。廊下には、椅子やソファーを配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂ける様に声を掛けているが使い慣れている物が少なくその人らしさを出す事が難しいが、家族の協力を得て仏壇や鏡台などを持って来ているお客様もいる。	エアコン、洗面所、ベッド、押し入れが備え付けられており、仏壇やクローゼットなど馴染みのものを持ち込んでいる。また、畳を入れ和室に替えている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の身体機能に合わせて設備を工夫して行きたい。手すりなどは随時必要に応じて設置している。		